

3 / 24(木)

## 若返れ「用の山のサクラ」 ～河辺北平地域～

用の山の桜（エドヒガンの一種）は、樹齢約350年という大変貴重な桜で、県の天然記念物に指定されています。この桜を後世に残すため、愛媛の森林基金「緑の募金」交付事業を活用し、老木を元気にする作業を行いました。

作業は、樹木医の森本政敏先生の指導の下、北平地域のみなさんの協力により行われました。

まず土壌の流出を防ぐため、斜面に土留木柵を施し、配合した土壌改良剤を入れました。樹木に対しては、県内の天然記念物の樹木では初めてとなるエドヒガンの若い根を接ぎ根し、桜の若返りを試みました。

これからもこの桜の木が、元気に花を咲かせてくれることを期待しています。



樹木医の指導を仰ぎ作業に取り組む地元のみなさん

## 元気にハツラツプレー!!

～しゃくなげまつりゲートボール大会～

4 / 12(火)



真剣な表情でプレーする参加者

第16回しゃくなげまつりゲートボール大会が、肱川町の大駄場ふれあい広場で開催されました。大洲市内はもとより、伊方町や鬼北町からの参加もあり、全25チーム155人による熱戦が繰り広げられました。

この日は天気にも恵まれ、みなさんの元気なハツラツプレーにより、多くの名・珍プレーが生まれました。

優勝された「長浜チーム」のみなさん、本当におめでとうございます。

4 / 14(木)

## 大きくなってね！ ～稚鮎の放流～

肱川での豊漁と夏の風物詩である鵜飼いの成功を目的に、肱川漁業協同組合の主催による「稚鮎の放流」が、肱川如法寺河原で行われました。

この日は春の日差しが差し込む青空の下、肱南保育所園児11人も放流のお手伝いをしました。稚鮎をバケツに入れてもらうと、子どもたちは大はしゃぎで川べりに移動し、「大きくなってね」などと声をかけながら、ゆっくりと稚鮎を川に放していました。

稚鮎の放流は、毎年この時期に行われるもので、8センチほどの稚鮎は漁の解禁となる6月には約20センチの大きさまで成長します。



稚鮎を優しく川に放す子どもたち

4 / 17(日)

## 被災者へ元気と勇気を！

～小野地蔵尊祭・子ども相撲大会～

白滝商工観光連盟の主催により、春の恒例行事である子ども相撲大会が小野地蔵尊で行われました。

参加した児童は、白滝小から22人、柴小から6人の合わせて28人のちびっ子力士たちです。

初参加の1年生はかなり緊張した様子でしたが、高学年は横綱顔負けの堂々とした表情をしているのが対照的でした。

相撲はどの取り組みも大相撲となり、観客席からは熱い戦いにどよめきと笑いが沸き起こっていました。

子どもたちのカー杯の頑張りや、東北地方で被災されたみなさんに元気と勇気を届けているように感じました。

今回の経験で得た頑張りやを忘れることなく、子どもたちには白滝を支える元気の源になってほしいと願っています。



はっけよい！のこった！

## サポーターの熱い声援が後押し

～愛媛マンダリンパイレーツ公式戦～

4 / 30(土)



ナイスバッティング！

八幡浜・大洲地区運動公園で愛媛マンダリンパイレーツ対香川オリーブガイナーズの公式戦が開催されました。試合は愛媛が優位に試合運び、3回に1点を先制、5回には岡下選手の満塁ホームランで4点を加点、更に6回にもダメ押しとなる1点を加えました。

投げては先発の能登原選手が7回を1点の最小失点に抑え、3投手のリレーで香川の攻撃を封じ、安定した戦いぶりを見せてくれました。

この日は多少風が強いものの、晴天となり絶好の観戦日和となりました。運動公園を訪れた911人のサポーターたちは、試合やお楽しみ抽選会、出店など春の1日を満喫していました。

5 / 3(火)

## 願いを込めた鯉のぼり

～大川鯉のぼり川渡しイベント～

地域の宝である子どもたちの成長を願い、地域の活性化と清流肱川をアピールすることを目的に、第4回大川鯉のぼり川渡しイベントが行われました。

この日はあいにくの曇り空でしたが、家族連れなど多くの方が鯉のぼりを見に訪れ、稚鮎の放流やちびっ子ウォークラリーなどの催しものを楽しんでいました。

今年はワイヤーを2本つるし、寄付などで提供された約200匹の鯉のぼりが設置されました。また、大成小の子どもたちが作った40匹の鯉のぼりも会場内に設置され、訪れた人の目を楽しませていました。

今回の収益の一部は、東日本大震災で被災されたみなさんを応援するため義援金として寄付されます。



肱川を舞台に設置された鯉のぼり

【がんばる市内企業の事業活動や事業展開を紹介します】

## (株)伊予正食品

～価格より良い商品作りを目指す～



弊社は、昭和21年に八幡浜市で個人経営としてスタートし、地元6社による企業体を経て、昭和63年に大洲市に移転しました。

販売商品は、地元八幡浜産の小魚を使用するじゃこ天を主力商品に、かまぼこ、ちくわなどを扱って、東京・大阪などを販路としています。

当初は、西大洲に工場をかまえていましたが、2度の水害で大きな被害を受け、平成19年から、現在の場所での生産・営業活動を行っています。

水害にあった直後は、経営できるのが精一杯の状態でしたが、従業員の仕事に対する意欲と、取引先の協力に支えられ、危機を乗り越

# がんばる大洲企業

◇所在地 大洲市八多喜  
◇電話 59-6630



越えることができました。弊社は、言わば関わりのある全ての人に育ててもらった会社だと思っています。

現在、従業員22人の内、約8割を市内から雇用しています。

弊社を取り巻く状況は厳しいものがあります。漁業者の担い手不足、魚価の低迷、原油高騰などの影響から、材料となる魚の水揚げが落ちているに加え、同業者との競争が激しくなっています。そのような中、弊社では商品に付加価値をつけたり、地域に応じた商品開発に力を注いでいます。

「全てに感謝の気持ちを持って仕事を」をモットーに、これからも安心して価格より良い商品作り、消費者に根付いた商品作りを目指していきます。

## 文化財

どうしゅう  
銅鐘  
国指定重要文化財  
(工芸品)  
出石寺蔵



金山出石寺に伝わるこの青銅製の鐘は、高麗王朝時代(918～1392年)の朝鮮半島で作られたいわゆる朝鮮鐘と呼ばれるものです。

銅鐘の下部には、仏像とそれを囲む2体のぎざてん跪座天人像が描かれ、日本のものとは雰囲気異なる優雅な文様を見ることができます。

伝承では豊臣秀吉の朝鮮出兵の際、従軍した当時の大洲城主藤堂高虎が朝鮮より持ち帰って出石寺に奉納したものとも言われますが、仏教信仰により大陸から輸入されたものである可能性もあり、当寺に伝わった経緯は定かではありません。

(大正7年4月8日指定)

## 野鳥

キセキレイ(黄鶺鴒)  
スズメ目 セキレイ科  
大きさ20cm



春になると、雄は「チチチチ、チチチチ」と、よく通る声で民家の屋根などでさえずり、綺麗にドレスアップして雌にアピールします。地元では昔からなじみの深い小鳥で、水辺でお尻を上下に振る動作から「石だたき」とも呼ばれています。平地から高い所まで住んでいますが、山道で出会うと車の前を飛んでは降り、降りては飛びを繰り返し、まるで道案内をしている様子にも見えます。春は植物の芽吹きと同時に、昆虫が大発生します。それを合図に野鳥たちは一斉に子育てを始めます。自然を共有することで、理にかなった命の営みが繰り返されますが、利益追求の結果、自然界に無い化学物質を作り出す現代社会は、基本の方向が誤っているような気がしてなりません。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト④

# 私たちが指定管理者です！

【施設名】ふれあいの里 鹿鳴園  
【指定管理者】株式会社城川自然ロッジ



別荘気分で、  
素敵な朝を！

ふれあいの里「鹿鳴園」では、鹿野川ダム湖に隣接する宿泊施設の運営管理と公園の維持管理を行っています。  
緑溢れる大自然の中で自分たちだけの静かな時を感じ、心身ともにリフレッシュしてみませんか。  
広島県の宮島から譲り受けた鹿園の鹿たちが愛想良く出迎えてくれます。また、小鳥のさえずりで目覚める癒し系ログ

ハウス「ケビン」は5棟あり、2人から8人まで宿泊可能です。鹿野川ダム湖を一望でき、研修室も備わっている「望湖荘」は、合宿や研修に最適な団体専用宿泊施設（最大40名様収容）となっていて、隣には「バーベキューハウス」も完備されています。  
さらに、全天候型テニスコートも5面完備されていて、シャワー室、トイレも併設されています。

## 【指定管理者からの耳より情報】

☆ケビン・望湖荘にお泊りになると次の特典があります。

- ・割引料金でテニスコートが利用できます。
- ・ケビンのバーベキュースペースは無料です。（要予約）
- ・5月ごろには、パンビの姿も見られます。

す。また、園内には季節の花で飾られた大きな花時計があります。  
「心あるおもてなし」をモットーにより多くのみなさんに喜んでいただくように、従業員が一人丸となりお迎えします。  
みなさんのお越しを心よりお待ちしております。

### 所在地

大洲市肱川町予子林 94  
☎ 2333

## こんにちはは市長です

### 災害を思う

3月11日に東日本を襲った大地震は、津波や原発事故による災害も加わり多くの貴い命や住民の生活基盤を奪い、現在も懸命な復旧作業が続いています。

岩手県の普代村は、太平洋に面した村でありながら、今回の津波を完全に防ぐことができませんでした。この村は明治に15mの津波に襲われたと言

い伝えがあり、当時の村長が「堤防が高すぎる」という批判に屈せず、15mの堤防の必要性を訴え続けた結果だそうです。

大洲市も水害が避けられない土地です。防災対策は少しでも安全性を高め、速やかに進めていくことが重要であること、もう一度教えられた気持ちです。

原子力の事故も他人事ではありません。大洲市役所は、伊方原子力発電所から22kmの距離にあります。福島第一原子力発電所と同様の事故が起きれば、市民に避難など大きな影響が出ます。東

京周辺では、東北に比べて被害が小さかったものの、電力の供給不足により列車の運休や間引き運転など、都市生活に影響が出ており、大都市の脆弱さが露わになりました。科学力を盲信し、人間の都合を全てに優先するような社会に、今回の地震は警鐘を鳴らしているのではないのでしょうか。

科学技術はもろくも重要で、しかし自然は想像を絶する力を見せることがあり、観測資料がないという理由でそれを無視することは大きな危険につながります。地球をコントロールする発想よりも、人間が少し生活を我慢することで、地球全体の生態系に及ぼす影響を小さく出来ること、多くあります。

今回の災害を契機に、日本がリードして地球全体に謙虚さを持った科学文化を作り出すことこそ、私たちが今、考えることではないでしょうか。